



特集

子どもに寄り添い続けて四半世紀 鶴山塾25周年

子どもに寄り添い続けて四半世紀

鶴山塾が大切にしていること。それは「治そうとするより、わかろうとせよ」。大人の思いを無理やり子どもに押し付けるのではなく、子どもを丸ごと受け入れ、しっかり理解すること。そこから鶴山塾の支援は始まります。

「こころの居場所」通塾支援

学校に行きづらい小中学生のために…。心を安定させ「ホッ」といえる場所として…。大人や友だちとの人間関係を学び、学習に取り組み、生活や体験からさまざまなことを学びます。

とは、生きる力を身につけるための貴重な経験となります。また、キャンプなどの野外活動では、集団でのルールやその場にふさわしいコミュニケーションのあり方などを学んでいきます。

通塾支援 月・火・木・金曜日
午前9時～午後3時（原則）

「こころの居場所」を、気軽に相談

学校のこと、友だちのこと、家族のことで悩んでいるとき…。先生や家の人にわかってほしいことがあることも、悩みや不安が解消できないとき…。気軽に相談してください。ともに考え、支援していきます。

教育相談活動

①面接・電話相談

学校生活・家庭生活・社会生活における悩みを持つ子どもや保護者に対して、面接相談・電話相談を受けています（対象はおおむね未成年者）。

相談日 月～金曜日午前9時～午後5時

※学期に1回の休日相談もあります

相談員との信頼関係

相談員との1対1の時間を大切に、子どもたちの悩みや課題を一緒に考えます。この時間を通して、自分の良さや弱さに目がいってきます。「自分を認める」ことが自立への一歩だと考えています。



学校の勉強から遅れていくことが気になる子どもも多いので、学校とも連携し、個人に合った学習も進めています。

生活の一部をとともにする

～台所のある教育相談室～

鶴山塾は学校でも家庭でもない中間的な場所です。できる限り家庭に



②特別相談

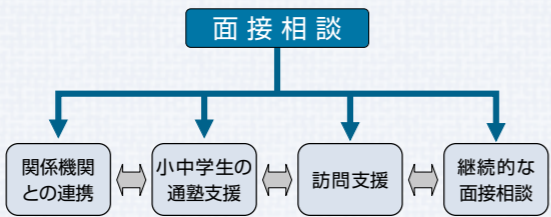
精神科医・臨床心理士・学識経験者による専門相談を行います。（予約要）

③継続支援

面接相談後、小中学生の通塾支援・訪問支援・継続面接や関係機関との連携などを行います。継続支援は、子どもたちの状況によって対応方法を変えていきます。

学校や関係機関との連携

学校や関係機関と情報交換や支援会議を開催し、それぞれの子どもに合った支援の共通理解と具体的な支援方法を検討・実施しています。また、講演会の開催や学校向けの便りなどで、子どもの現状理解と支援のための啓発もしています。



教育相談センター「鶴山塾」は昭和59年に開塾し、今年で満25年を迎えました。開塾当時は、校内暴力や登校拒否が大きな社会問題になり始めた時代でした。青少年健全育成事業の一環で、子どもたちの「こころの居場所」になる支援施設として市が設置した鶴山塾は、教育支援センター（適応指導教室）や学校への力ウンセラーの配置などがまだなかった当時としては、画期的・先進的な取り組みでした。開塾当時から「子どもたちと1対1でかかわること」「生活をともにし、人と人との輪を少しずつ広げていくこと」「実体験の中からいろいろなことを学んでいくこと」という基本姿勢は、今も変わりなく続けられています。

近い環境の中で生活をともにすることで、子どもたちは経験を積み、食をみんなで食べたり、会話を楽しくんだり「人の中で生きる力」を身につけます。

体験活動の重要性

鶴山塾ではボランティア「とまり木」の力を借りて、多くの体験活動を行っています。

昼食作りを子どもたちと一緒にしている、その子の本音が聞けたり、家庭の様子が見えたりします。また、本人が話さなくてもほかの人の会話を聞いたり、やり取りを肌で

感じたことは成長していくうえで大きな意味を持つてくるのです。



ボランティア「とまり木」須江 寛臣さん（八出）

鶴山塾は「台所のある教育相談室」です。開塾当時に、塾の昼食で使用する農産物を提供することからかわりが生まれました。今は子どもたちと一緒に農園作業をしています。子どもたちには、農園作業を通してさまざまな経験を積んでもらいたいと思っています。

楽しんで作業する子、見ていただけの子、学校では人と顔を合わせるのが苦手だけど熱心に野菜の手入れをする子…。いろいろな子がいます。どの子にも農園作業を通して、収穫の喜びや労働の大変さ、みんなで協力して作業することの喜びなどを感じてもらいたいですね。

塾生のお母さん・Nさん

中学1年の体育祭の後から、学校に行けなくなってしまいました。1～2カ月間、家からも出られなくなったので、鶴山塾に相談し、週に1回通塾することから始めました。中学3年になった現在、毎通通塾できるようになりました。週1回ですが学校にも行けるようになりました。

子どもにとって鶴山塾は、唯一自分らしくいられるところなんだと思います。今では塾で行う農園作業やキャンプのことなどの楽しかったことを、家でイキイキと話してくれるようになりました。



塾生OB 小川 達史さん（岡山市）

小学2年からほとんど学校には行かず、引っ込み思案で人見知りな子どもでした。鶴山塾には、中学1年の春から通うようになりました。最初は行くのが嫌でしたが、一度行ってみると意外と楽しくて毎日通うようになりました。

塾でいろいろな人とふれあう中で、通う前と比べて明るくなり、何事にも前向きに取り組めるようになりました。通い始めた時はヒョロヒョロでしたが、スポーツや農園作業をしているうちに、体も心も大きくなることができたと思います。

高校に行くようになってからも、鶴山塾は家からも学校からも近かったので、様子をよく見に行き、塾生たちが頑張っている姿を見て勇気もらいました。

今でも機会があれば塾を訪れ、いろいろなことを報告しています。この夏休みにも、来春の就職が決まったので報告に訪れました。職員やボランティアの皆さんには本当に良くしていただいて、今でも和気あいあいとなれる家族みたいな存在です。

鶴山塾は中学校卒業後も、子どもたちが支援を必要としなくなるまで、それぞれにふさわしい形で長くかかわっていきます。一緒に考え、少し背中を押してあげられる関係に…。自分自身で困難を乗り越えていく力を手に入れるまで…。

問い合わせ先 教育相談センター「鶴山塾」(山下) 022・25253